

J A全中 Monthly Report

7月

併せてJ A全中ホームページ (<http://www.zenchu-ja.or.jp/>) もご覧ください。

国際協同組合同盟 (ICA) は毎年7月第1土曜日を国際協同組合デーと定めています。第95回となる今年は、昨年11月に「協同組合の思想と実践」が国連教育科学文化機関 (ユネスコ) の無形文化遺産に登録されてから初めての国際協同組合デーとなりました。

J A全中では、世界が評価する協同組合の価値や役割を広く紹介するため、J Aグループだけでなく、消費者など幅広い層に向けて、テレビ、新聞など多様な媒体を用いて情報発信しました。

第30回「NHK 食料フォーラム」



6月29日、第30回「NHK 食料フォーラム」が開催されました。

テーマは「協同組合の可能性～グローバル時代に相互扶助の精神をいかす～」。

形文化遺産認定の流れに沿う形で、時宜にかなった開催となりました。

2006年の設立基準の緩和で協同組合が急増しているドイツでは、多くが再生可能エネルギーを扱い、担い手は地域住民や農家です。

茨城県では、57の協同組合が連携して「協同組合ネットいばらき」を発足させ、J Aと生協が協力し、子ども食堂を展開しています。また、協同労働をベースに多種多様な事業に

取り組む新しいタイプの協同組合として、ワーカーズコープ、ワーカーズコレクティブが登場しています。

これらを映像で紹介し、協同組合の可能性についてパネリストが話し合いました。J A全中の比嘉政浩専務理事は「同じ課題を抱える人や組織がつながることで、願いや想いをかなえるのが協同組合です。人々や組織の置かれた環境や背景が異なる中、違いでなく、一致できる点で協同して行動することが大切です」と語りました。

食料フォーラムの様子は、NHK Eテレの『TVシンポジウム』で放送を予定しています。

オピニオンリーダーによる テレビ番組・新聞企画

7月22日21時から1時間、BSジャパンで『ニッポン農業最前線! 未来に種蒔く担い手たち』を放送。J Aグループと日経BPが立ち上げたWebサイト「未来開墾ビジネス



7月6日付の『朝日新聞』(朝刊)「林修の特別授業」第2回。地域のライフラインの役割を果たすJAの存在意義を解説

ファーム」の掲載記事で反響が大きかった4本に、追加取材しました。

俳優の堤真一さんをナビゲーターに、①「農業のMBA」日本農業経営大学校 ②鹿児島県の「担い手・法人サポートセンター」 ③J A上伊那とファミリーマートのJ Aと企業連携 ④トヨタ自動車による農業生産工程管理システムを紹介しました。同番組のシリーズは、今年度、さらに2回放送する予定です。

また、朝日新聞の「林修の特別授業」の第2回を7月6日に掲載しました。地域のライフラインの役割を果たすJAの存在意義を取り上げました。第1回(6月8日)と第3回(8月5日予定)を含め、紙面の内容を映像化した番組をBS朝日で8月5日(土)13時から1時間、放送します。

日本農業新聞シリーズ企画 「協同組合を考える」

日本農業新聞に3回シリーズ(7月1日、8日、15日)で「協同組合を考える」を掲載。「国連の持続可能な開発目標(SDGs)への貢献」をはじめ、ドイツユネスコ委員会の副委員長のインタビューなどを掲載しました。



7月1日付の『日本農業新聞』「きょうは国際協同組合デー」